
常滑市民病院の現状と新病院建設について

平成23年5月15日

常 滑 市

100人会議 資料

目次

はじめに	2
公立病院等地域連携のための有識者会議の提言（抜粋）	3
1 常滑市民病院の現状と分析	4
1 - 1 医療体制 - 受診状況・救急医療 -	5
1 - 2 経営状況 - 損益の推移 -	6
1 - 3 医業収益 - 医業収益・診療単価・病床利用率・在院日数の推移 -	7
1 - 4 診療科別患者数 - 入院患者 -	8
1 - 4 診療科別患者数 - 外来患者 -	9
1 - 5 新病院の必要性	10
1 - 6 年齢階層別患者数	11
1 - 7 常滑市民がどこで医療を受けているか（国保加入者データ）	12
1 - 8 常滑市年齢階層別人口統計	13
2 新常滑市民病院の構想	14
2 - 1 新病院のイメージ	15
2 - 2 新病院の概要	16
2 - 3 新病院建設に係る事業費（概算）	17
2 - 4 新病院の位置	18
2 - 5 開院までのスケジュール	19

はじめに

常滑市民病院は、昭和34年5月の開院以来、市民のために総合的な医療を提供し、地域の中核病院として重要な役割を担ってきた。しかし近年、医師不足や施設の老朽化とそれに伴う患者の減少などによって、非常に厳しい経営状況に直面している。

当病院は、市内で唯一の病院であり、市民の利用率は高く（患者の8割が常滑市民）、市民の愛着も強い。また、常滑市は県内他市と比較して高齢化率が高いが、高齢になるほど遠距離の通院負担が大きくなる。さらに、当病院は年間約1,800件の救急搬送を受け入れており、この機能がなくなれば、知多半島医療圏における救急医療体制への影響も大きい。また、当病院は空港直近病院として、空港災害や感染症対策の観点から重要な役割を担う。

そこで、常滑市は、「公立病院等地域医療連携のための有識者会議」の提言を踏まえ、今後とも地域における医療・保健・福祉の中心的な役割を担い、住民に対して良質な医療を提供し、その期待に応えていくため、新病院を建設する。

有識者会議 の提言(H20.12.24)

圏域中央部における救急医療の確保を図るため、常滑市民病院は、適正病床数への移行を図りつつ、一般救急医療体制を確保のため、当面、半田市立半田病院との医療機能連携を進める必要がある。

有識者会議とは 「公立病院における経営状況の悪化及び医師不足による診療体制の縮小の現状を踏まえ、愛知県が地域医療の確保を図り医療機関の連携の在り方を検討するため、平成20年3月に設置した会議をいう。

愛知県「地域医療再生計画策定にあたっての基本的な視点」における常滑市民病院の位置づけ

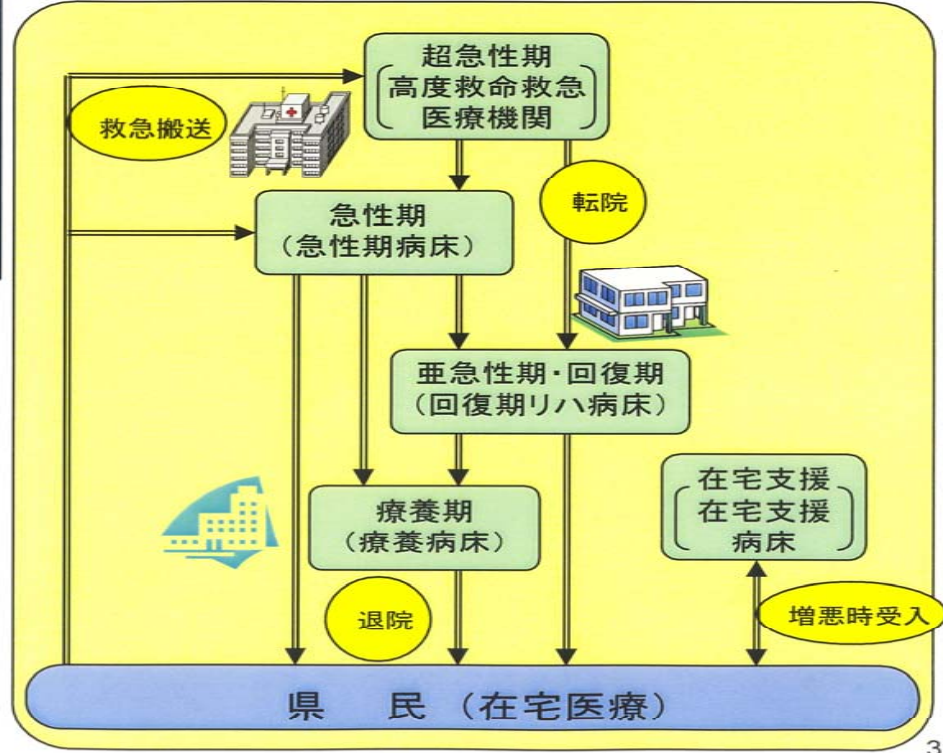
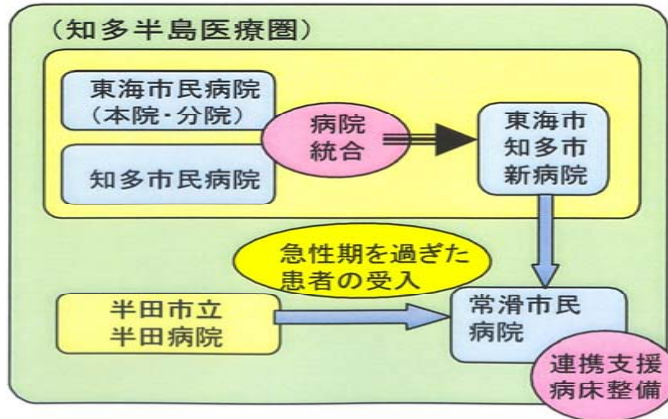
平成22年度第5回地域医療連携のための有識者会議（平成23年2月22日開催）資料

「地域医療再生計画策定にあたっての基本的な視点」抜粋

救急医療体制の構築（たたき台）

【救急医療体制の整備】
 ※「地域医療連携のための有識者会議」提言より
 ○入院救急において緊急性の高い疾患に365日24時間対応可能な医療機関（高度救命救急医療機関）を複数整備
 ⇒課題を抱える地域として5医療圏に対し提言
 ○現行地域医療再生計画において2地域（4医療圏）を対象とし各種取組を実施 ⇒知多医療圏のみ対象から除外
 ⇒今回の再生計画において対象
 【主要な取組（救急医療に係る病院間連携）】
 ○東海市・知多市市民病院の統廃合整備（3病院→1病院）（高度救命救急医療機関整備）
 ○半田市立半田病院（高度救命救急医療機関）との医療連携による連携支援病床の整備

【救急から在宅への流れを構築】
 ○各圏域WG及び有識者会議で位置づけ（23年度）
 ○各期に位置づけられた病院の施設整備を支援（24・25年度）



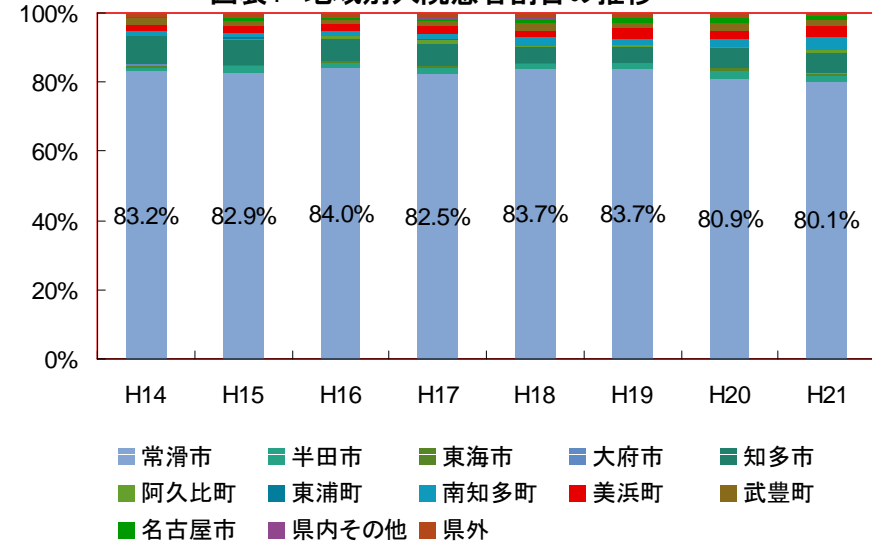
1 常滑市民病院の現状と分析

※H22年度の数字は、速報値となります。

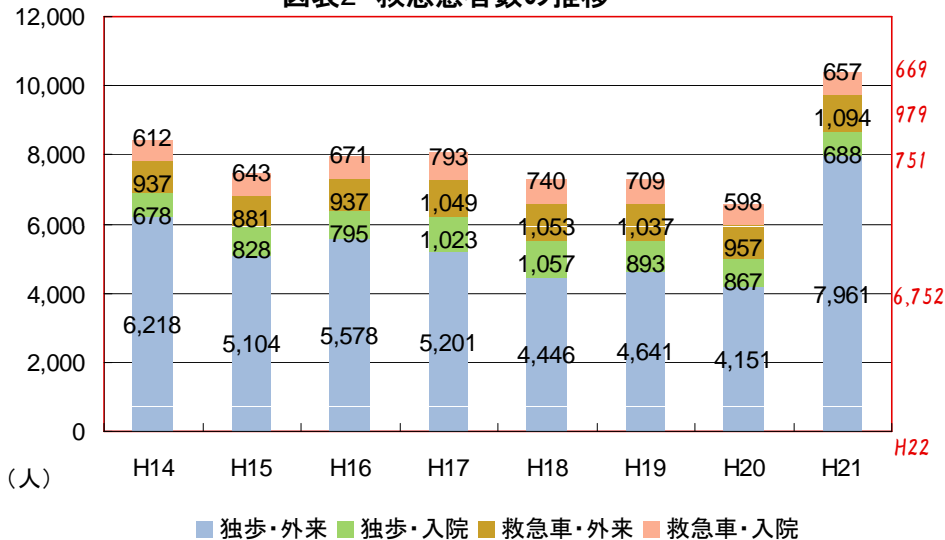
1-1 医療体制 - 受診状況・救急医療 -

- 入院患者を地域別にみると、常滑市民が8割以上を占めている(図表1)。
- 救急患者は毎年7千件から8千件を受け入れている。また、平成21年度は新型インフルエンザの影響で大きく増加し、1万人超の救急患者を受け入れた(図表2)。
- 救急患者数、救急搬送件数は高水準で推移しており、本院は地域の救急医療において重要な役割を果たしている(図表2・3)。
- 常滑消防署の救急搬送先としては、平成20年度までは約93%を本院に搬送していたが、整形外科・呼吸器内科の常勤医師不在のため、平成21年度は89%となった(図表3)。

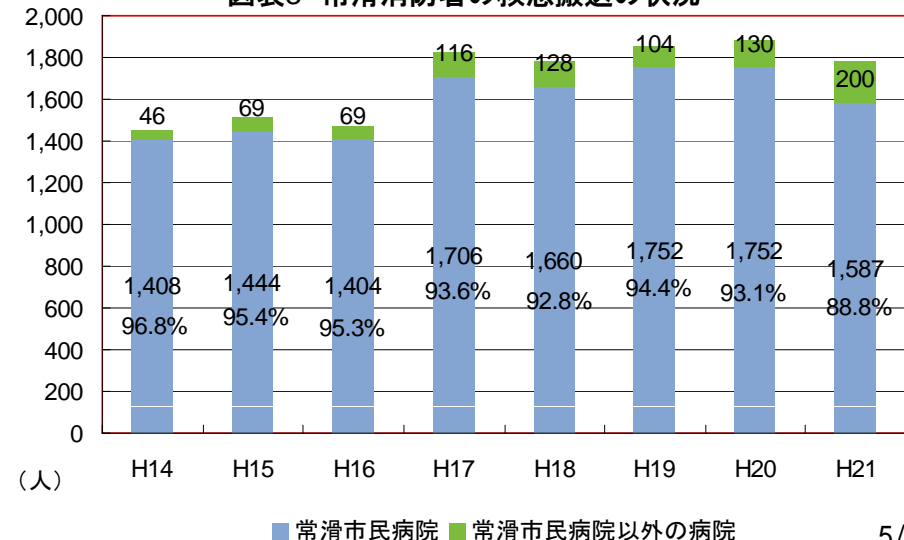
図表1 地域別入院患者割合の推移



図表2 救急患者数の推移



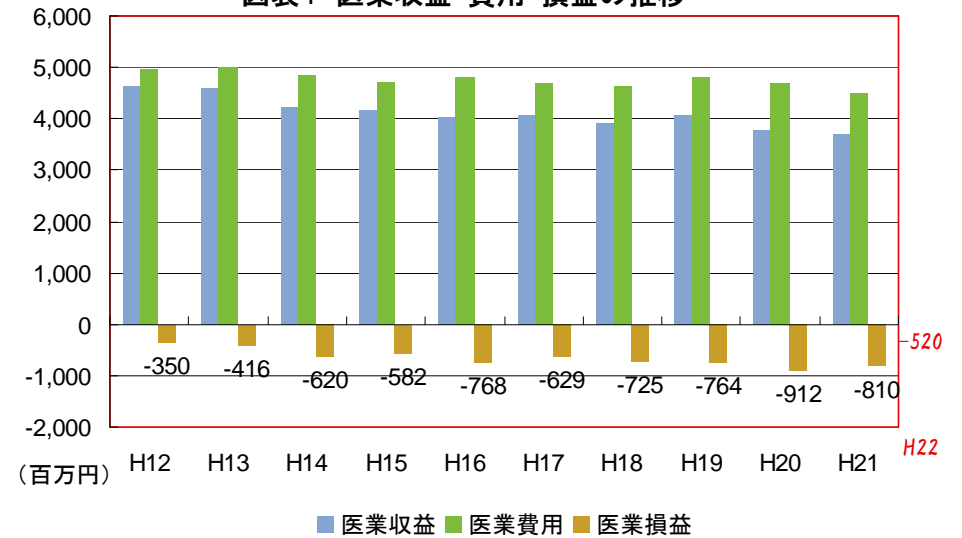
図表3 常滑消防署の救急搬送の状況



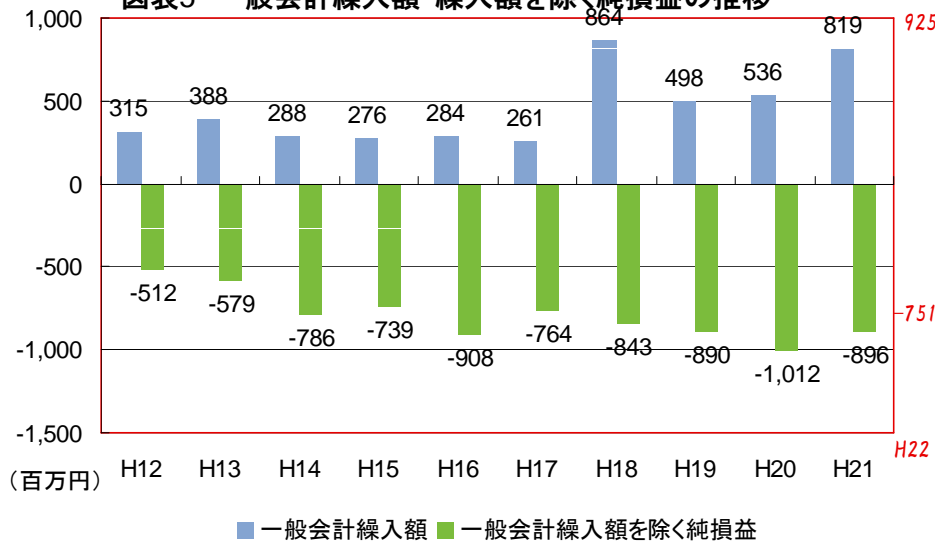
1-2 経営状況 - 損益の推移 -

- 医業収益は、平成19年度に増加したものの、減少傾向にある。赤字が経常化しており、近年は、7億円から9億円の医業損失を計上している(図表4)。
- 一般会計繰入金は増加傾向にあり、基準内・基準外合計で5億円から9億円程度を繰り入れている。一般会計繰入額を除くと、8億円から10億円の純損失となる(図表5)。
- 純損益(一般会計繰入金を含む。)も赤字が経常化しており、最大で6億2千万円の純損失を計上している(図表6)。

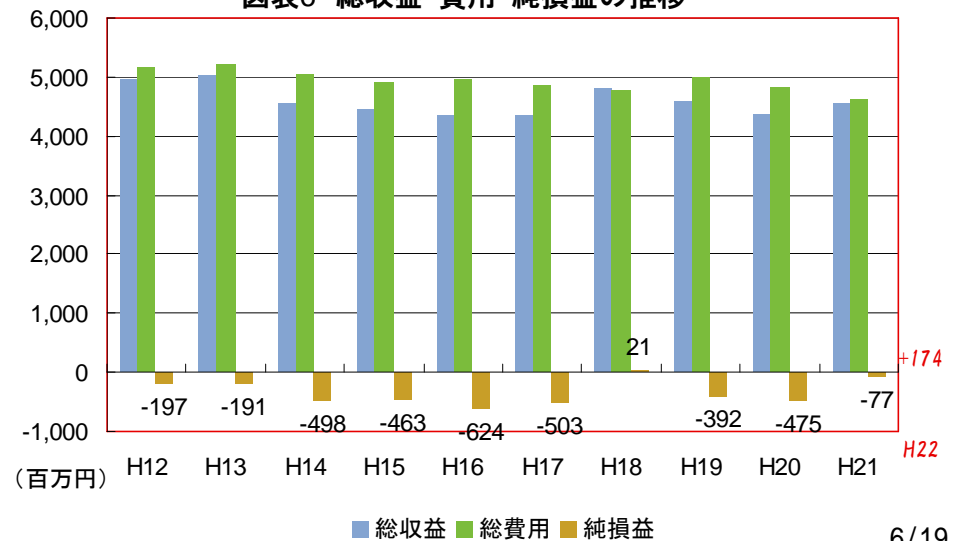
図表4 医業収益・費用・損益の推移



図表5 一般会計繰入額・繰入額を除く純損益の推移

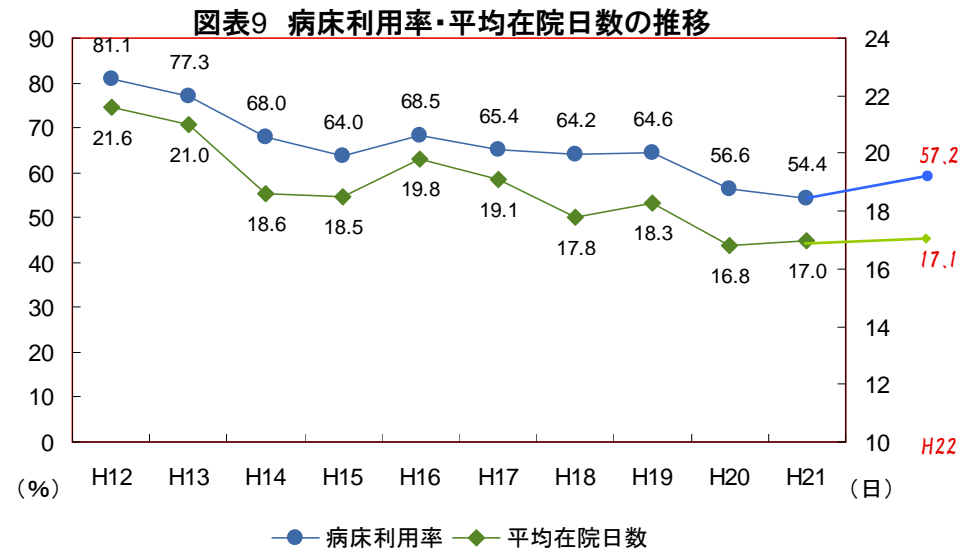
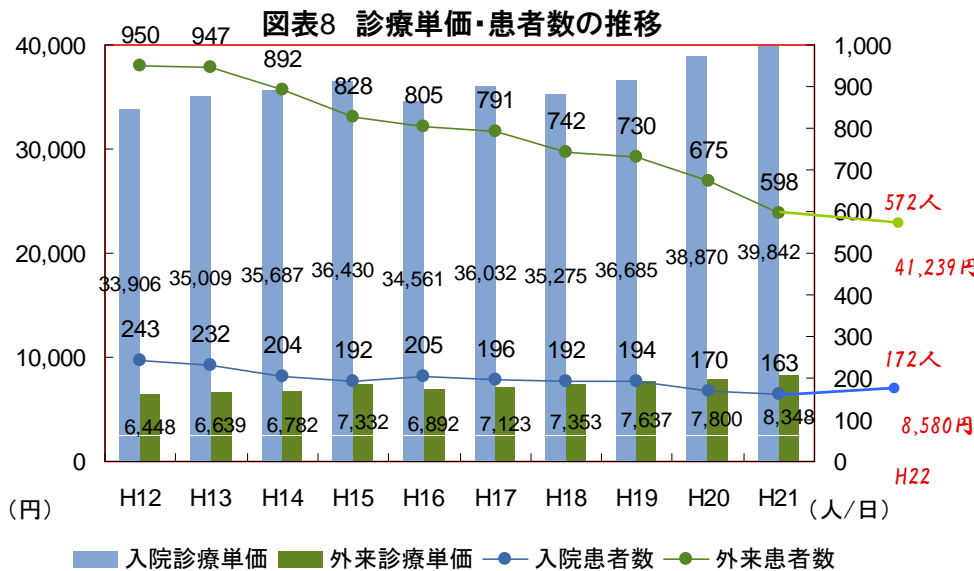
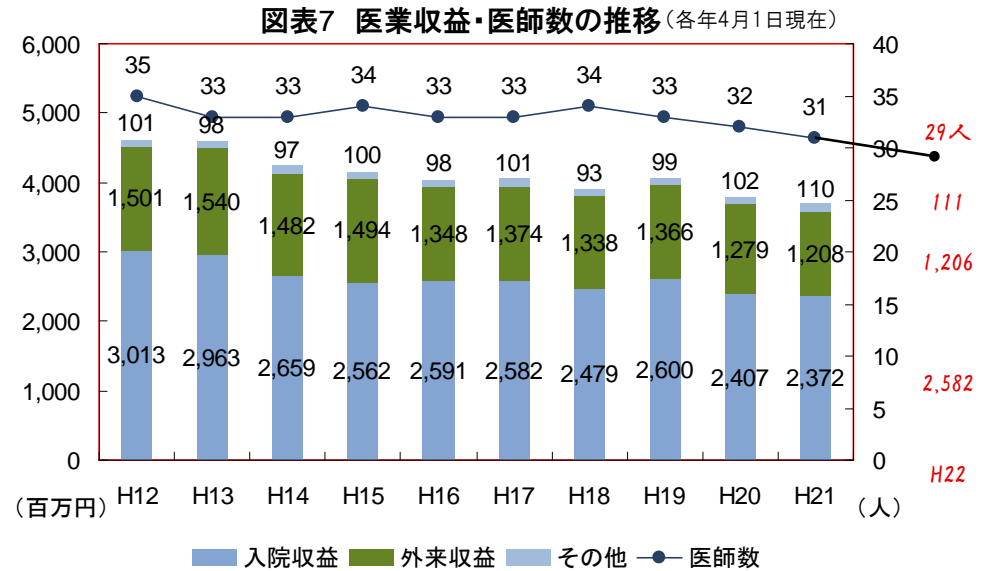


図表6 総収益・費用・純損益の推移



1-3 医業収益 - 医業収益・診療単価・病床利用率・在院日数の推移 -

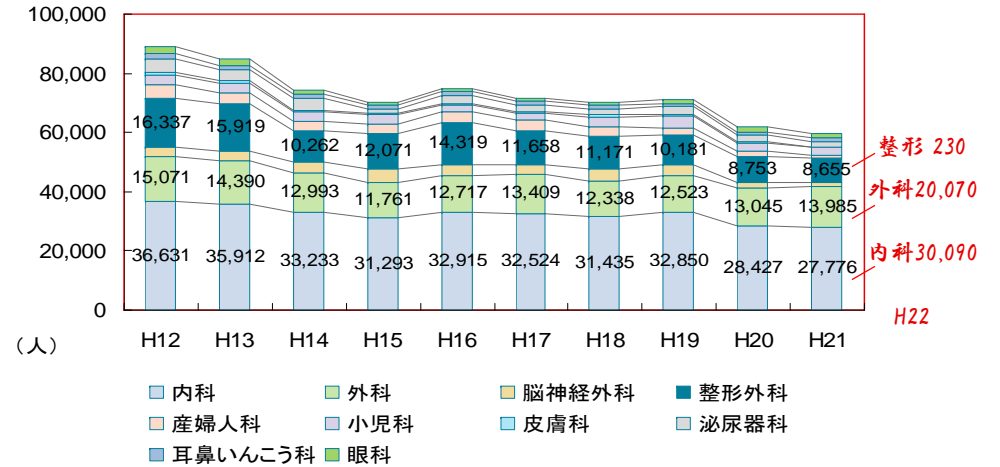
- 平成12年度と平成21年度を比較すると、医業収益は、入院収益、外来収益とも概ね8割程度に減少している。医師数は35人から31人に減少しており、近年は医師数の減少に伴い収益も減少している(図表7)。
- 診療単価は入院・外来とも上昇している。特に入院単価は経営努力等により平成19年度から、外来単価は平成17年度から上昇している。しかし、患者数(1日当たり平均)は入院・外来とも減少が著しく、結果的に医業収益は減少している(図表8)。
- 平均在院日数は徐々に短縮されているが、病床利用率は低下している(図表9)。



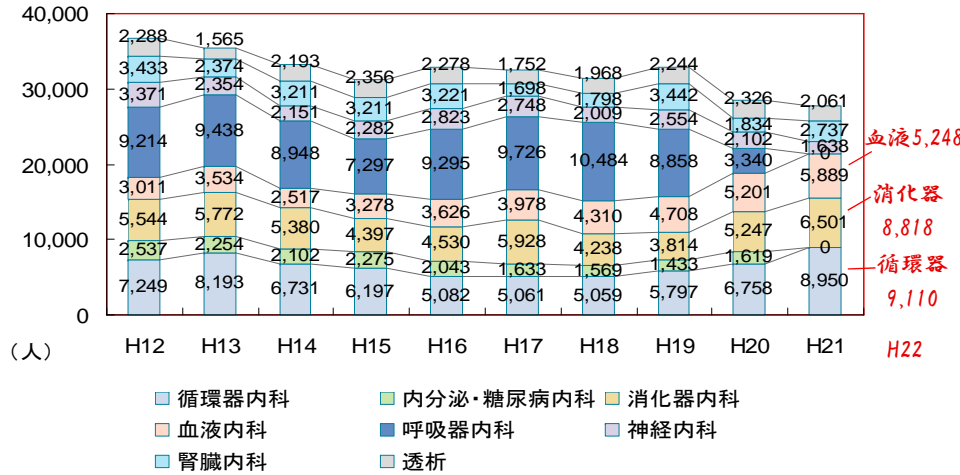
1-4 診療科別患者数① -入院患者-

- 診療科別の入院患者をみると、いずれの診療科も患者数は減少している(図表10)。
- 常滑市の特性として呼吸器疾患の患者数が多く、これまでも多くの入院患者を受け入れていたが、現在はこの地域特有の医療ニーズに対応できていない(図表11)。
- 内科の入院患者数の内訳をみると、循環器内科、血液内科が増加している。一方、呼吸器内科は、医師の退職により、内分泌・糖尿病内科は、常勤医師が嘱託医師になったため、平成21年度は入院患者がなかった(図表11・12)。
- 平成21年度は、脳神経外科、産婦人科が大きく減少しているが、これは脳神経外科医師、産婦人科医師が退職したことによる。(図表10)一方、平成21年度は外科医師が1名増員になったこともあり(図表12)、外科の入院患者数は増加している(図表10)。
- 整形外科医師は、平成21年度は3名となっているが、8月以降1名となり、平成22年度はゼロとなっている(図表12)。

図表10 診療科別入院患者数の推移



図表11 内科入院患者数(内訳)の推移



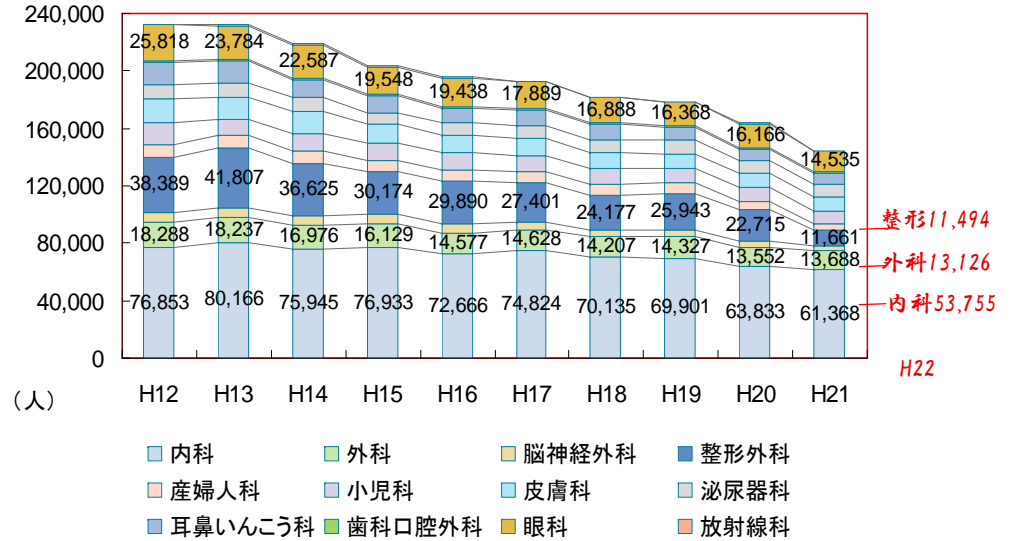
図表12 医師数の推移(各年4月1日現在)

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
内科	14	14	14	14	13	14	14	13	13	13	12	11
総合内科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
循環器内科	3	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4	4
内分泌・糖尿病内科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
消化器内科	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	3	3
血液内科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
呼吸器内科	2	2	2	2	2	2	1	1	1	0	0	0
神経内科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
腎臓内科	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1
外科	5	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	5
脳神経外科	1	1	1	2	1	1	1	1	1	0	1	1
整形外科	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	0	0
その他	12	11	11	11	11	11	11	11	10	9	9	9
合計	35	33	33	34	33	33	34	33	32	31	28	26人

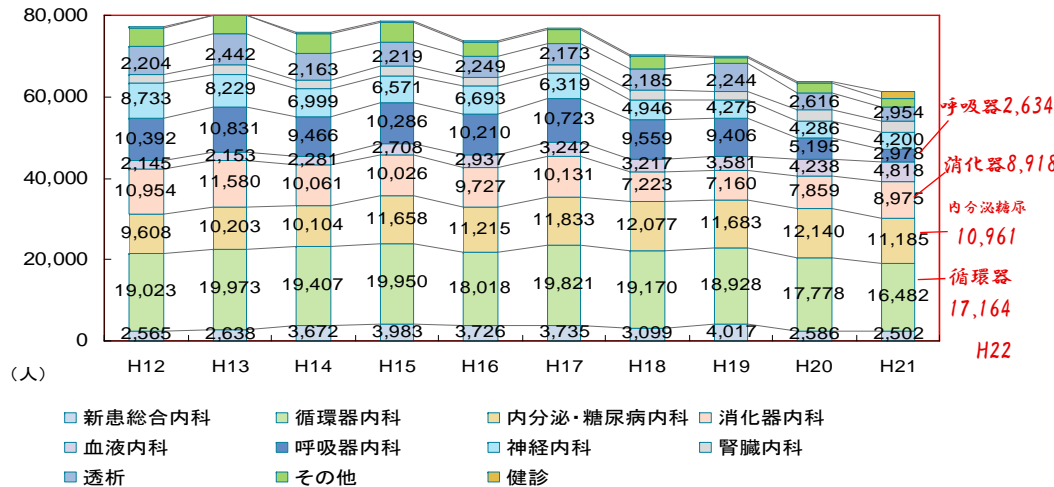
1-4 診療科別患者数② - 外来患者 -

- 診療科別の外来患者数をみると、いずれの診療科も患者数は減少している(図表13)。
- 常滑市は、高齢化率(愛知県20.2%、常滑市23.6%)が高く、整形外科、眼科の外来患者数が多い。整形外科は、10年前と比較して患者数が3分の1程度まで減少している(図表13)。
- 内科の外来患者数の内訳をみると、新患総合内科、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、消化器内科、血液内科の患者数が多く、これらは他の診療科と比較して減少の幅が小さい。なかでも、血液内科は増加傾向にある。一方で、呼吸器内科については、常滑市の地域特性から、従来患者割合が高かったが、平成20年度から常勤医師不在となり、外来患者数が大きく減少している(図表14・15)。
- 整形外科医師は平成21年度は3名となっているが、8月以降1名となり、平成22年度は0名となっている(図表15)。

図表13 診療科別外来患者数の推移



図表14 内科外来患者数(内訳)の推移



図表15 医師数の推移(再掲) (各年4月1日現在)

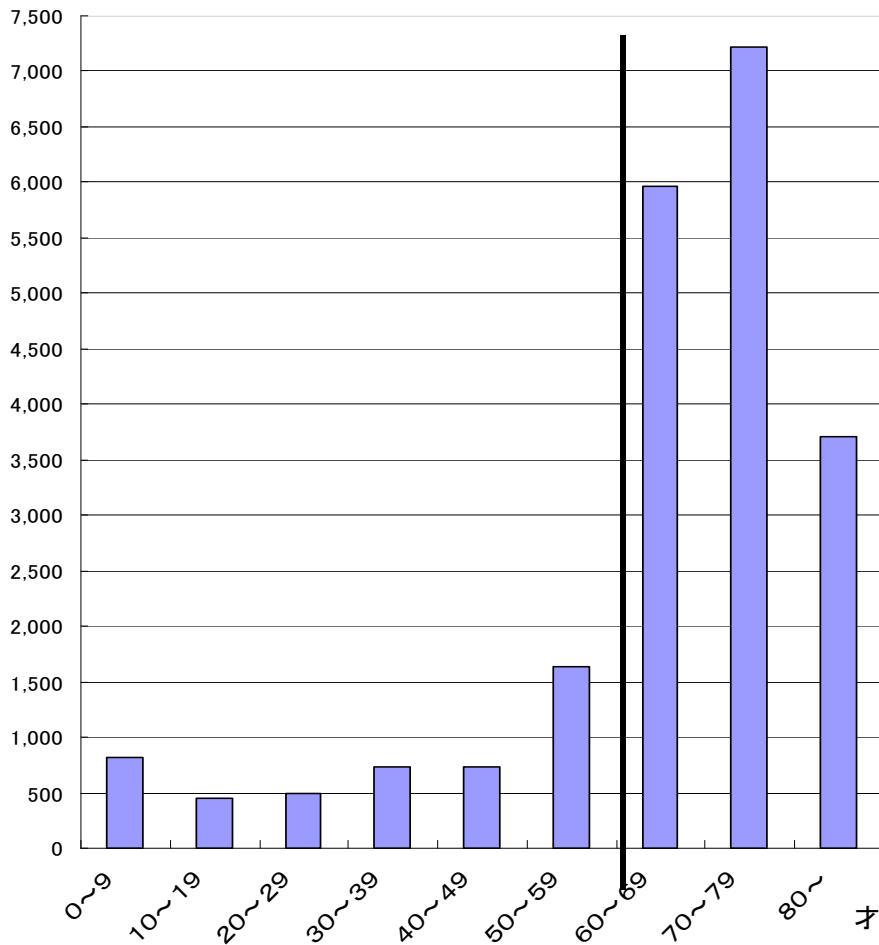
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
内科	14	14	14	14	13	14	14	13	13	13	12
総合内科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
循環器内科	3	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4
内分泌・糖尿病内科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
消化器内科	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	3
血液内科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
呼吸器内科	2	2	2	2	2	2	1	1	1	0	0
神経内科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
腎臓内科	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
外科	5	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6
脳神経外科	1	1	1	2	1	1	1	1	1	0	1
整形外科	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	0
その他	12	11	11	11	11	11	11	11	10	9	9
合計	35	33	33	34	33	33	34	33	32	31	28

1-5 新病院の必要性

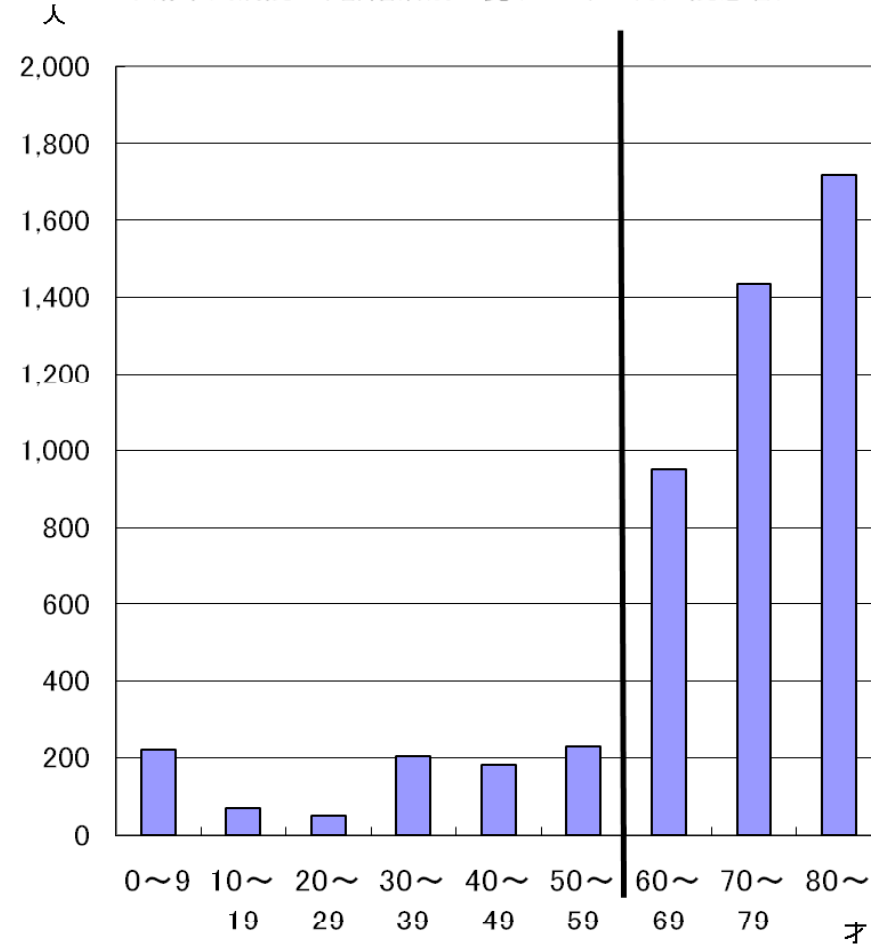
- ① 市内唯一の病院(入院施設)
- ② 救急患者を8,000件/年、うち救急搬送1,800件/年を受け入れ
近隣病院に余裕はほとんどない(半田病院病床利用率87.8%)
- ③ 空港直近病院としての機能(空港災害、感染症)
- ④ 高齢化への対応
 - ・高齢化とともに、遠距離通院が困難に
 - ・複数の診療科を受診する患者が増え、総合病院が便利
 - ・慢性期患者の増加
- ⑤ 急性期病院の入院短期化に伴う、回復期リハビリ、緩和ケア、慢性期等への対応

1-6 年齢階層別患者数

人 常滑市国民健康保険 年齢階層別一覧(H19年5月入院・外来患者)



人 常滑市民病院 年齢階層別一覧(H22年10月入院患者)



どちらも60才以上が8割程度を占めている。

1-7 常滑市民がどこで医療を受けているか(国保加入者データ)

平成20年度より後期高齢者が国保から分離

入院					
市	年度	件数	割合	日数	割合
常滑市	平成18年度	1,316	44.3%	16,274	34.4%
	平成19年度	1,380	42.0%	15,942	31.0%
	平成20年度	1,171	38.5%	13,695	28.3%
	平成21年度	1,106	36.0%	11,787	25.2%
半田市	平成18年度	455	15.3%	8,896	18.8%
	平成19年度	518	15.8%	10,575	20.6%
	平成20年度	535	17.6%	10,277	21.2%
	平成21年度	612	19.9%	11,545	24.7%
名古屋市	平成18年度	438	14.7%	7,848	16.6%
	平成19年度	479	14.6%	8,146	15.8%
	平成20年度	459	15.1%	7,224	14.9%
	平成21年度	444	14.5%	6,779	14.5%
豊明市	平成18年度	101	3.4%	2,077	4.4%
	平成19年度	117	3.6%	2,132	4.1%
	平成20年度	91	3.0%	1,809	3.7%
	平成21年度	104	3.4%	1,857	4.0%
知多市	平成18年度	131	4.4%	1,520	3.2%
	平成19年度	129	3.9%	1,316	2.6%
	平成20年度	126	4.1%	1,548	3.2%
	平成21年度	128	4.2%	1,607	3.4%
南知多町	平成18年度	87	2.9%	2,351	5.0%
	平成19年度	104	3.2%	2,768	5.4%
	平成20年度	74	2.4%	2,113	4.4%
	平成21年度	76	2.5%	2,159	4.6%
武豊町	平成18年度	48	1.6%	724	1.5%
	平成19年度	67	2.0%	1,230	2.4%
	平成20年度	127	4.2%	2,246	4.6%
	平成21年度	85	2.8%	1,535	3.3%
大府市	平成18年度	58	2.0%	1,092	2.3%
	平成19年度	58	1.8%	1,211	2.4%
	平成20年度	78	2.6%	1,643	3.4%
	平成21年度	72	2.3%	1,473	3.2%
美浜町	平成18年度	59	2.0%	824	1.7%
	平成19年度	86	2.6%	1,071	2.1%
	平成20年度	50	1.6%	701	1.4%
	平成21年度	93	3.0%	1,325	2.8%
東海市	平成18年度	7	0.2%	172	0.4%
	平成19年度	13	0.4%	240	0.5%
	平成20年度	17	0.6%	381	0.8%
	平成21年度	48	1.6%	869	1.9%
その他	平成18年度	274	9.2%	5,556	11.7%
	平成19年度	334	10.2%	6,815	13.2%
	平成20年度	313	10.3%	6,762	14.0%
	平成21年度	302	9.8%	5,820	12.4%

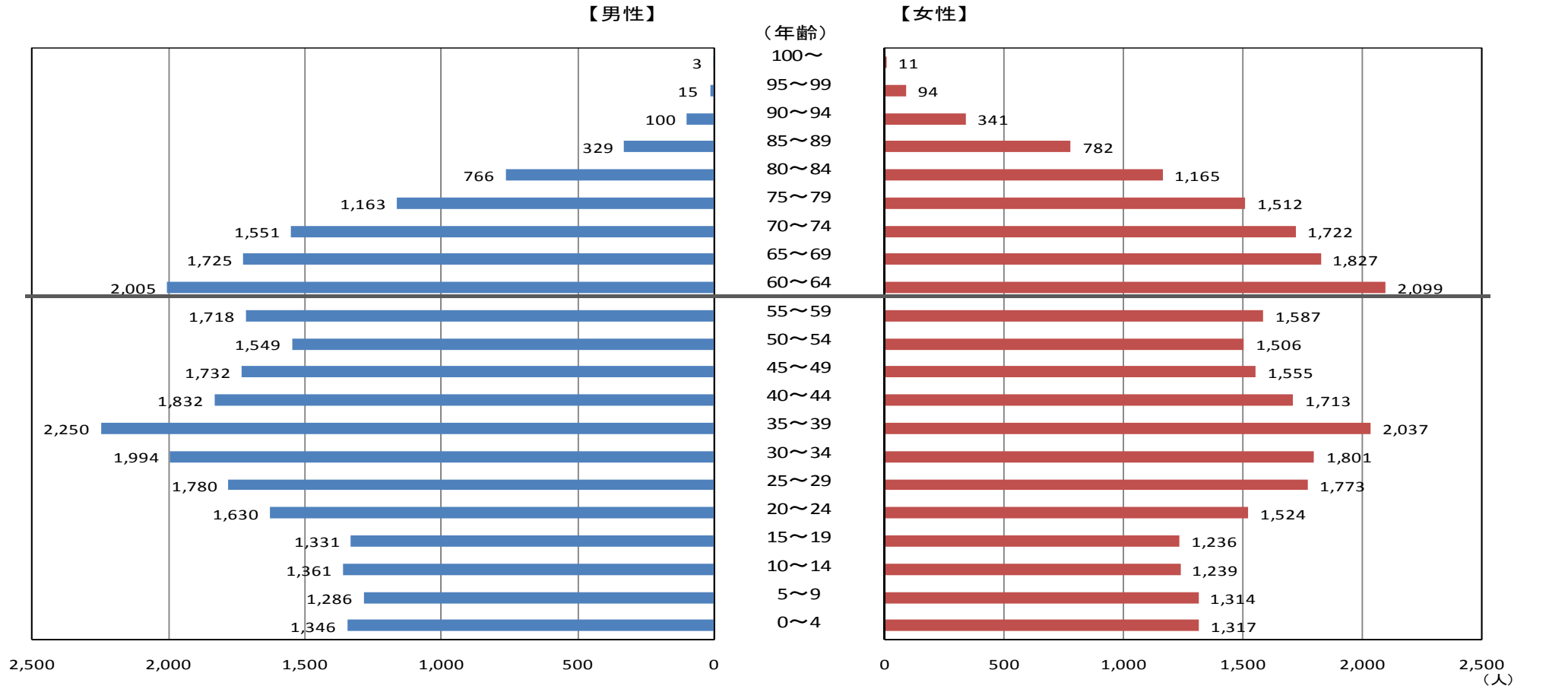
常滑市民病院の入院患者の割合は減少しており、主に半田市内の医療機関に流れている。

外来					
市	年度	件数	割合	日数	割合
常滑市	平成18年度	87,282	68.8%	165,602	69.3%
	平成19年度	91,344	68.6%	171,630	68.2%
	平成20年度	92,475	69.0%	169,115	68.7%
	平成21年度	93,828	68.6%	168,330	68.4%
うち常滑市民病院	平成18年度	30,142	23.7%	44,025	18.4%
	平成19年度	30,198	22.7%	44,426	17.6%
	平成20年度	28,169	21.0%	40,258	16.4%
	平成21年度	25,575	18.7%	37,031	15.1%
半田市	平成18年度	10,777	8.5%	17,921	7.5%
	平成19年度	11,082	8.3%	19,000	7.5%
	平成20年度	11,027	8.2%	17,927	7.3%
	平成21年度	11,654	8.5%	18,364	7.5%
名古屋市	平成18年度	5,308	4.2%	7,469	3.1%
	平成19年度	5,733	4.3%	8,613	3.4%
	平成20年度	5,931	4.4%	8,771	3.6%
	平成21年度	5,939	4.3%	8,599	3.5%
豊明市	平成18年度	647	0.5%	857	0.4%
	平成19年度	812	0.6%	1,138	0.5%
	平成20年度	710	0.5%	926	0.4%
	平成21年度	703	0.5%	856	0.3%
知多市	平成18年度	8,192	6.5%	14,837	6.2%
	平成19年度	8,709	6.5%	15,874	6.3%
	平成20年度	8,911	6.7%	16,308	6.6%
	平成21年度	9,174	6.7%	16,397	6.7%
南知多町	平成18年度	424	0.3%	954	0.4%
	平成19年度	420	0.3%	1,023	0.4%
	平成20年度	367	0.3%	642	0.3%
	平成21年度	345	0.3%	540	0.2%
武豊町	平成18年度	6,996	5.5%	15,743	6.6%
	平成19年度	7,312	5.5%	17,213	6.8%
	平成20年度	6,981	5.2%	16,530	6.7%
	平成21年度	6,989	5.1%	16,073	6.5%
大府市	平成18年度	569	0.4%	799	0.3%
	平成19年度	588	0.4%	836	0.3%
	平成20年度	592	0.4%	847	0.3%
	平成21年度	596	0.4%	754	0.3%
美浜町	平成18年度	1,943	1.5%	3,761	1.6%
	平成19年度	2,172	1.6%	4,244	1.7%
	平成20年度	2,045	1.5%	3,833	1.5%
	平成21年度	2,441	1.8%	4,094	1.7%
東海市	平成18年度	925	0.7%	1,669	0.7%
	平成19年度	976	0.7%	1,794	0.7%
	平成20年度	817	0.6%	1,295	0.5%
	平成21年度	899	0.7%	1,457	0.6%
その他	平成18年度	3,889	3.1%	9,372	3.9%
	平成19年度	3,969	3.0%	10,431	4.1%
	平成20年度	3,902	2.9%	10,026	4.1%
	平成21年度	4,243	3.1%	10,664	4.3%

市内の患者動向に大きな変化はないが、開業の増加等により市民病院の外来患者の割合は減っている。

1-8 常滑市年齢階層別人口統計

団塊の世代の高齢化により医療ニーズの増大が予測される。



常滑市年齢階層別人口統計

(平成22年12月末日現在)

【男性】

人口	27,466人
15歳未満	3,993人 (14.53%)
15～64歳	17,821人 (64.88%)
65歳以上	5,652人 (20.57%)
うち75歳以上	2,376人 (8.65%)

【総計】

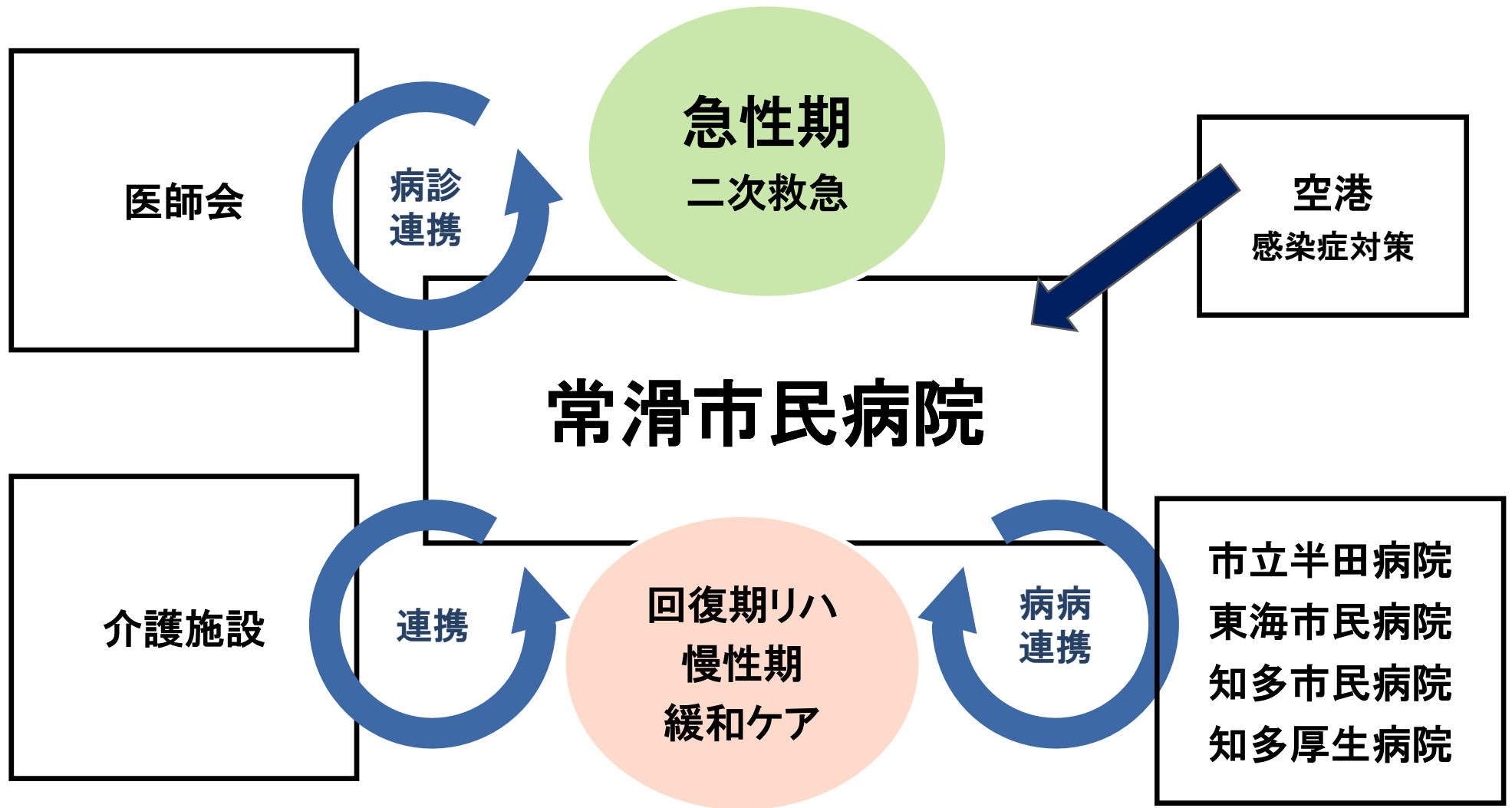
総人口	55,621人
15歳未満	7,863人 (14.13%)
15～64歳	34,652人 (62.30%)
65歳以上	13,106人 (23.56%)
うち75歳以上	6,281人 (11.29%)

【女性】

人口	28,155人
15歳未満	3,870人 (13.74%)
15～64歳	16,831人 (59.77%)
65歳以上	7,454人 (26.47%)
うち75歳以上	3,905人 (13.87%)

2 新常滑市民病院の構想

2-1 新病院のイメージ



2-2 新病院の概要

(1)建設予定地

常滑西特定土地区画整理事業 5 4 - 2 街区

(2)病床数

急性期病床 200床程度 回復期リハビリ等病床 50床程度

(3)標榜診療科

現在の標榜診療科を基本とする

(4)主な認定機能

救急告示病院 臨床研修指定病院 病院機能評価認定病院

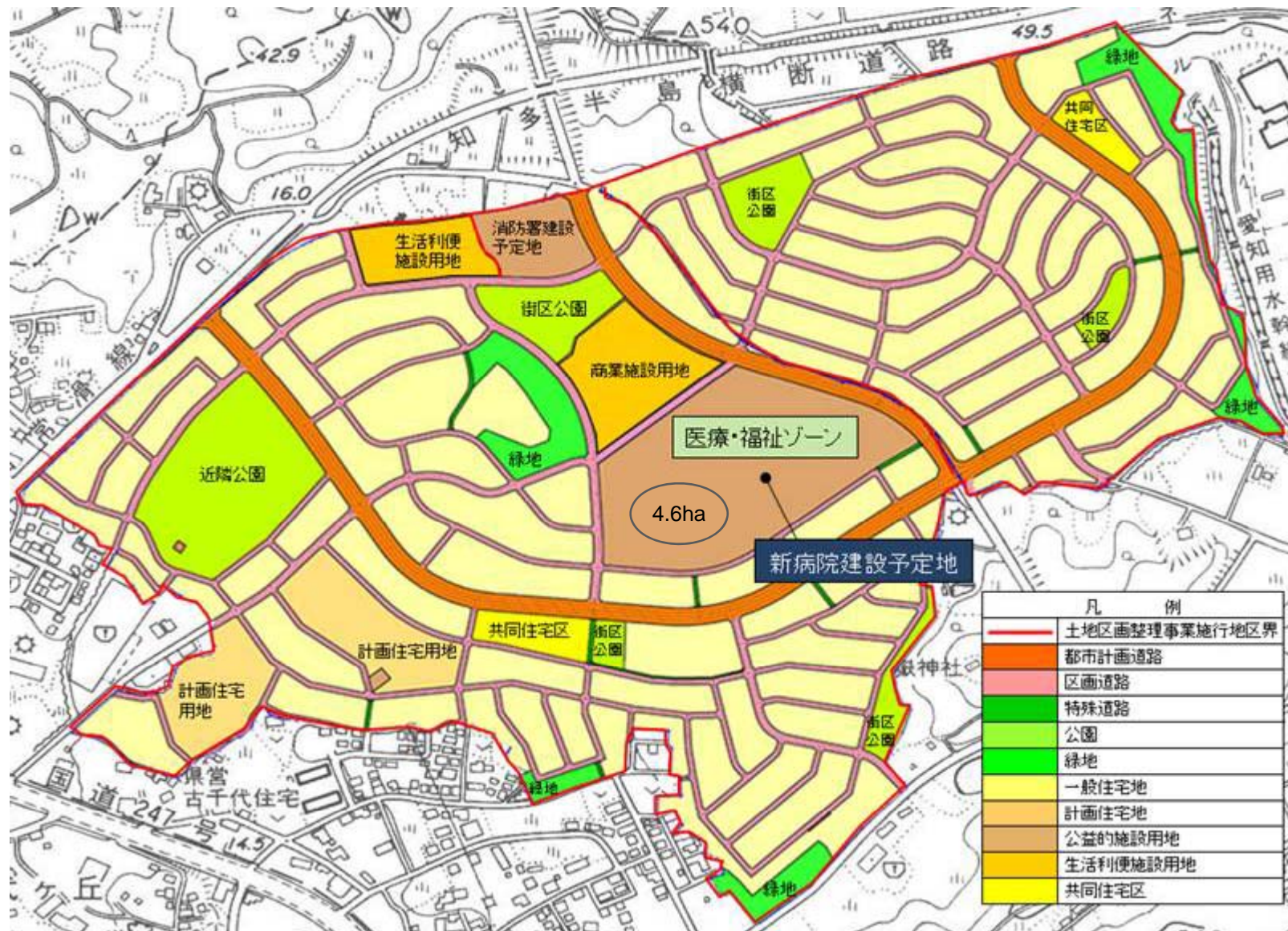
(5)患者数

開院 3 年目の目標 入院 急性期180人 / 日 回復期リハビリ等45人 / 日
外来 700人 / 日

2-3 新病院建設に係る事業費(概算)

項 目	内 容	金 額
建設工事費	病院本体・外構・設計監理・解体工事費等	5.5億円
医療機器等整備費	医療機器・医療情報システム整備費	2.3億円
その他	備品費・引越し費用	2億円
合 計		8.0億円

2-4 新病院の位置



2-5 開院までのスケジュール

- 平成23年度、基本構想策定委員会を設置し、基本構想を策定する。
- 基本構想策定後、設計に着手し、平成25年6月までに設計を完了する。平成25年8月に建設工事を着工し、平成27年1月に完成する。
- その後、開院準備(移転・引越)を経て、平成27年5月に新病院を開院する。

年度	平成22年度			平成23年度												平成24年度												平成25年度												平成26年度												平成27年度						
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7															
基本構想																																																										
市民会議																																																										
設計・監理																																																										
建設工事																																																										
開院準備 開院																																																										